

浜の活力再生プラン
(第二期)

1 地域水産業再生委員会 浜プラン ID 119012

組織名	小松島地区地域水産業再生委員会 (小松島地区)
代表者名	会長 三原 秀之

再生委員会の構成員	小松島市、小松島漁業協同組合、和田島漁業協同組合
オブザーバー	徳島県水産振興課

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	対象地域：徳島県小松島市小松島町、中田町、横須町及び金磯町 対象漁業経営体数:26 (漁業者数 54) 漁業種類：小型機船底びき網漁業
-------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

小松島市は四国東部の紀伊水道沿岸のほぼ中央に位置し、当地区周辺海域は、吉野川・那賀川の2本の一級河川が流れ込む好漁場を有し、小型機船底びき網漁業、瀬戸内海機船船びき網漁業やワカメ養殖業が盛んに行われている。主魚種としてハモ、エビ類、イカ類、シラスなどがあり、ハモは市推奨の魚にもなっており日本有数の水揚げ高を誇っている。また、平成29年度において中小企業庁の「ふるさと名物応援宣言」も「ハモ」で行ったところであり、地域ブランドとして、また観光資源としても重要な産物となっている。

しかし、温暖化により海水温が上昇していることが影響と見受けられる魚類の回遊路や回遊時期の変動、また開発による埋め立てにより、漁場環境の変化や藻場の喪失等で年々漁獲量の減少が危惧されている。

また、組合員も年々減少傾向であり、漁業後継者不足や魚価の低迷などに直面している。

(2) その他の関連する現状等

小型機船底びき網漁業にとって最大のコストである燃油が異常高騰した場合に対応するため漁業経営セーフティーネット構築事業に加入し経営の安定化を図るほか、資源管理にも注力し浜の活力再生プランに取り組むことにより、真の浜の活力再生に取り組んでいく。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

【漁業収入向上のための取組】

(PR活動の取組)

小松島漁協は、小松島市及び市内漁協・農協で構成される「こまつしまブランド戦略推進協議会」(以下、「ブランド協」という。)に参画し、地元NPO、商工会、県等とタイアップを行い、県内外で行われる各種イベントにおいて当該漁協で水揚げされるハモ、エビ類、イカ類等の水産物のPRを積極的に行った。特に首都圏での物販イベントへは年間3回程度出展し、現地の飲食店等への営業も行った。

また、海外における輸出戦略として、台湾やベトナムを始めとする東南アジアにおいても積極的にハモ加工品や干しエビ等の販促活動を行い、これら加工品の輸出の可能性を探るとともに、産地の知名度向上や販路開拓を図った。

PR活動を通して、少しずつ「小松島産ハモ」の知名度が高まっており、一定の成果はあったと思われる。しかしながら、関東圏においては未だに知名度が低い状態であるため、継続的な販促活動を行っていくことが重要である。また、輸出に関しては鮮度保持や流通コスト等が原因となって継続的な商談が難しい状況である。このため、水産物の鮮度保持向上や流通コストの削減、差別化によるブランド化向上の取組を継続していく。

(鮮度保持による付加価値の向上の取組)

漁業者が自主的・積極的に漁獲物の鮮度向上への取組を行い、品質向上に努め、単価向上を図った。具体的には、対象漁業者は全員小型機船底びき網漁業のみを専業に行っているが、漁業者ごとに漁船サイズ、操業場所、操業時期、対象魚種に応じ1操業あたりの曳網時間、1日あたりの曳網回数が大きく異なっているため、組合が主体となって全漁業者共通の取組として、1操業あたりの曳網時間を短縮するよう働きかけた。「ハモ」に関しては、曳網時間を約1時間30分から約1時間へと30分程度短縮したことにより、網による魚体のスレの軽減を図り、漁獲物の鮮度保持に取り組んだ。

このことにより市場において、釣り漁業に比しても劣らない品質として認められて来ており単価向上に繋がっていると言える。今後は、資源管理の観点からも、さらなる鮮度保持と付加価値の向上を図っていく。

(新商品開発による販路拡大、認知度向上の取組)

小松島漁協は、小型機船底びき網漁業の主要な漁獲物であるエビ類、イカ類について、瞬間冷凍機等を利用した新たな商品（真空冷凍パック等）を開発し、現在、小松島漁協が「ハモ天」や「ハモしゃぶ」などのハモ加工品で積極的に取り組んで来た。パンフレットやインターネットなどを利用した通信販売においてこれら商品の販売を行ったほか、「ハモ」、「アジアカエビ」が市のふるさと納税の返礼品に認定される等、認知度向上に資する取組を行った。結果として、飲食店や小売等、新たな販路を獲得することができた。今後も加工品等について積極的な商品開発を行っていく。

(食育活動等の取組)

漁協と漁業者が連携し、小中学生を対象とした地元水産物の食育活動等の取組を積極的に行い、地産地消を推進した他、漁協内において一般消費者に向けて地元産物を販売する「みなと海鮮朝市」を開催し、特産物であるハモやアジアカエビ等の PR を実施することで地元水産物のさらなる認知度向上の取組を行った。「海鮮朝市」は当初毎月第 4 土曜日だけの開催であったが、平成 30 年度から場所を漁協敷地内に移し、週 5 日程度開催し、地元の一般消費者の購買頻度を向上させた。今後も、地域全体としての水産振興の観点からも取組を継続していく。

(地先資源の維持・回復の取組)

漁協と漁業者が関係機関と連携し、種苗放流（ヒラメ、クルマエビ及びアサリ）による資源の底上げ等を積極的に行った。

このような地先資源の維持や回復については、計画的に今後も取組を継続していく。

【漁業経費削減の取組】

(省エネ機器・設備導入の取組)

省燃油につながる取組として、船底清掃や減速航行の積極的な実施により、燃油コストの削減を図った。また、燃油高騰に伴う操業コストの圧迫に備えるため、漁業経営セーフティネットの加入を促進した。

第 1 期においては基準年（平成 26 年度）に対し、平成 30 年度までの漁業所得は、漁獲量の減少に伴う収入減のため 10%向上が達成できていない。

第 2 期では第 1 期の継続的な取組のほか、漁獲量の確保に努めるとともに鮮度保持による付加価値向上による収入向上や、さらなるコスト削減の取組を推進していく。

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

【漁業収入向上のための取組】

(PR活動の取組)

県や市等と連携を図りながら小松島漁協で水揚げ又は加工される水産物等のPRを県内外で積極的に行う。とりわけ、京阪神を中心とした活鰹の市場出荷に係るPRと、喫食習慣の乏しい関東圏でのPRを合わせて実施し、全国的な「小松島産ハモ」のブランド化を目指す。海外輸出に関しては、県等と連携しながら、品質保持や差別化等を含めた技術革新を図った上で、関係事業者とも協議しながら取組を進める。

また、漁協が主催する「みなと海鮮朝市」を開催することで、市内外に向けた小松島産の水産物のPRを行う。

(鮮度保持による付加価値の向上の取組)

曳航時間を短縮する等して鮮度保持に漁業者が努めるほか、元根井地区に整備した蓄養水槽を活用することで主に鰹の鮮度保持に努めるほか、プロトン凍結機等の技術を活用した冷凍加工品の付加価値向上を図る。

(新商品開発による販路拡大、認知度向上の取組)

主な魚種である鰹の新商品を地元の民間企業と連携して開発に努めるほか、関係機関等と連携しながら販路拡大、認知度向上を図る。

(食育活動等の取組)

小松島漁協は小松島市学校食育推進実務者会議と連携し、保育所から中学校までの学校給食に小型機船底びき網漁業で漁獲されたハモ、クロダイ、シログチ等を提供し、教育現場等における食育の普及と学校給食での利用拡大を図る。

また、小中学生を対象に、小松島漁協関連施設の見学や職場体験を実施するほか、「みなと海鮮朝市」を開催し、多くの人々に地元水産物についての理解増進に努める。

(地先資源の維持・回復の取組)

漁協と漁業者が関係機関と連携し、種苗放流（ヒラメ、クルマエビ及びアサリ）による資源の底上げ等を積極的に行う。さらに、マコガレイについても新たに種苗放流を行い、資源維持に努める。

【漁業コスト削減のための取組】

(省エネ機器・設備導入の取組)

省エネ機器・設備導入により整備コスト削減及び省燃油に繋げるよう努める。

(減速航行の取組)

減速航行（機関回転数を 200 回転下げる）を実施し燃油コスト削減に努める。

(船底清掃の取組)

船底清掃により船底と海面の抵抗を少なくし、燃費向上を図ることで経費削減に努める。

(操業時間低減の取組)

操業時間を低減させることにより、燃油コスト削減に努める。

これら取組に関しては、国、県、市の事業の活用を図ることとし、漁業収入向上と漁業コスト削減とを組み合わせ、総合的に漁業者の所得向上を図る。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

【小型船びき網漁業】

・漁業関係法令上、周年操業（1月1日から12月31日）が認められているが、自主的に120日以上のお休漁及び操業時間の短縮を実施し資源管理に努めている。

(4) 具体的な取組内容 (毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目 (令和2年度) 「所得2%以上向上」

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組を行うことにより、基準年度の漁業収入に対し毎年1%の向上を目標に取り組む。</p> <p>(PR活動の取組)</p> <p>小松島漁協の小型機船底びき網漁業において、1操業あたりの曳網時間の短縮や1日あたりの操業時間を短縮することにより、釣りの漁獲物に負けないスレが少なく鮮度の高い漁獲物を水揚げし、単価向上を図る。</p> <p>また、小松島漁協で水揚げされるハモやエビ類の加工品を東京で行われる「農林水産祭」等において直売等を行うとともに、毎年東京と大阪で行われる知事自ら出席するトップセールスに参加し、PR活動を行い、関東・関西の卸売業者、小売業者等を対象とした新たな販路拡大を目指す。</p> <p>さらに、主に大都市圏を中心としたプロモーション活動に向けた取組について戦略的な検討を行う。</p> <p>加えて、漁協が主催する「みなと海鮮朝市」等のイベントを通じて、地域内でのPR活動も積極的に行っていく。</p> <p>(鮮度保持による付加価値の向上の取組)</p> <p>小松島漁協は、小型機船底びき網漁業の主要な漁獲物であるエビ類、イカ類について、瞬間冷凍機を利用した新たな商品(真空冷凍パック等)を開発し、パンフレットやインターネットなどを利用した通信販売においてこれら商品の販売を行い、販路拡大と認知度向上を図ることにより、漁獲物の単価向上を目指すほか、プロトン凍結機等、最新技術を取り入れながら付加価値の向上を図る。</p> <p>(新商品開発による販路拡大、認知度向上の取組)</p> <p>小松島漁協は、地域の事業者と連携を図りながらハモやアジアカエビ等の水産資源を活用した新商品開発を積極的に行い、6次産業化の取組を図る。</p> <p>(食育活動等の取組)</p> <p>小松島漁協と小松島市学校食育推進実務者会議が連携し、保育所から中学校までの学校給食に小型機船底びき網漁業で漁獲されたハモ、クロダイ、シログチ等を提供し、教育現場等における食育の普及と学校給食での利用拡大を図る。</p> <p>また、小中学生を対象に、漁協開設市場である小松島漁協魚市場の見学や職場体験を実施することで食育の取組を推進する。</p>
--------------	--

	<p>(地先資源の維持・回復の取組)</p> <p>漁業者が主体となって小松島漁協と協力し、ヒラメやクルマエビの種苗放流に取り組むほか、青年部が主体となって小松島漁協と協力し、アサリの放流を行い水質改善や藻場の回復を図る。さらに、マコガレイの種苗放流を行い、資源維持に努める。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>以下の取組により漁業コストを基準年より資材費等の高騰も踏まええ約0.3%増加に抑制させる。ただし、燃油コストに関しては基準年比 2%削減させ、目標年度には基準年比 10%以上の削減を目指す。</p> <p>当委員会構成員の船舶燃費向上を図るため、年に1回は船底清掃を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減速航行の積極的な実施。 ・小型機船底びき網漁船の機関を省エネ機関へ機関換装し燃油消費量削減を実現する。 ・操業時間を低減させることにより、燃油コスト削減を実現するため、部会等で検討する。
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティーネット構築事業（国）</p> <p>浜の活力プラン推進事業（国）</p> <p>水産業強化支援事業（国）</p> <p>水産多面的機能発揮対策事業（国）</p> <p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）</p> <p>徳島県単独水産振興関係事業（県）</p> <p>徳島県農山漁村未来創造事業（県）</p> <p>小松島市単独漁業後継者育成対策事業（市）</p>

2年目（令和3年度）「所得4%以上向上」

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組を行うことにより、基準年度の漁業収入に対し毎年1%の向上を目標に取り組む。</p> <p>(PR活動の取組)</p> <p>小松島漁協の小型機船底びき網漁業において、1操業あたりの曳網時間の短縮や1日あたりの操業時間を短縮することにより、釣りの漁獲物に負けないスレが少なく鮮度の高い漁獲物を水揚げし、単価向上を図る。</p> <p>また、小松島漁協で水揚げされるハモやエビ類の加工品を東京で行われる「農林水産祭」等において直売等を行うとともに、毎年東京と大阪で行われる知事自ら出席するトップセールスに参加し、PR活動を行い、関東・関西の卸売業者、小売業者等を対象とした新たな販路拡大を目指す。</p> <p>さらに、大都市圏を中心としたプロモーション活動に向けた取組について、試験的に新規販路開拓に向けた物販への参加等を行う。</p> <p>加えて、定期的に開催する「みなと海鮮朝市」等のイベントを通じて、地域内でのPR活動も積極的に行っていく。</p> <p>(鮮度保持による付加価値の向上の取組)</p> <p>小松島漁協は、小型機船底びき網漁業の主要な漁獲物であるエビ類、イカ類について、瞬間冷凍機を利用した新たな商品（真空冷凍パック等）を開発し、パンフレットやインターネットなどを利用した通信販売においてこれら商品の販売を行い、販路拡大と認知度向上を図ることにより、漁獲物の単価向上を目指すほか、プロトン凍結機等、最新技術を取り入れながら付加価値の向上を図る。</p> <p>(新商品開発による販路拡大、認知度向上の取組)</p> <p>小松島漁協は、地域の事業者と連携を図りながらハモやアジアカエビ等の水産資源を活用した新商品開発を積極的に行い、6次産業化の取組を図る。</p> <p>(食育活動等の取組)</p> <p>小松島漁協と小松島市学校食育推進実務者会議が連携し、保育所から中学校までの学校給食に小型機船底びき網漁業で漁獲されたハモ、クロダイ、シログチ等を提供し、教育現場等における食育の普及と学校給食での利用拡大を図る。</p> <p>また、小中学生を対象に、漁協開設市場である小松島漁協魚市場の見学や職場体験を実施することで食育の取組を推進する。</p>
---------------------	---

	<p>(地先資源の維持・回復の取組)</p> <p>漁業者が主体となって小松島漁協と協力し、ヒラメやクルマエビの種苗放流に取り組むほか、青年部が主体となって小松島漁協と協力し、アサリの放流を行い水質改善や藻場の回復を図る。さらに、マコガレイの種苗放流を行い、資源維持に努める。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>以下の取組により漁業コストを基準年より資材費等の高騰も踏まええ約0.3%増加に抑制させる。ただし、燃油コストに関しては基準年比 2%削減させ、目標年度には基準年比 10%以上の削減を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減速航行の積極的な実施。 ・小型機船底びき網漁船の機関を省エネ機関へ機関換装し燃油消費量削減を実現する。 ・操業時間を低減させることにより、燃油コスト削減を実現するため、部会等で検討し、必要があれば他の地区の取組視察等の調査を実施する。
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティーネット構築事業 (国)</p> <p>浜の活力プラン推進事業 (国)</p> <p>水産業強化支援事業 (国)</p> <p>水産多面的機能発揮対策事業 (国)</p> <p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業 (国)</p> <p>徳島県単独水産振興関係事業 (県)</p> <p>徳島県農山漁村未来創造事業 (県)</p> <p>小松島市単独漁業後継者育成対策事業 (市)</p>

3年目（令和4年度）「所得6%以上向上」

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組を行うことにより、基準年度の漁業収入に対し毎年1%の向上を目標に取り組む。</p> <p>(PR活動の取組)</p> <p>小松島漁協の小型機船底びき網漁業において、1操業あたりの曳網時間の短縮や1日あたりの操業時間を短縮することにより、釣りの漁獲物に負けないスレが少なく鮮度の高い漁獲物を水揚げし、単価向上を図る。</p> <p>また、小松島漁協で水揚げされるハモやエビ類の加工品を東京で行われる「農林水産祭」等において直売等を行うとともに、毎年東京と大阪で行われる知事自ら出席するトップセールスに参加し、PR活動を行い、関東・関西の卸売業者、小売業者等を対象とした新たな販路拡大を目指す。</p> <p>さらに、大都市圏を中心としたプロモーション活動に向けた取組について、前年度の結果に基づきながら取組を行う。</p> <p>加えて、定期的に開催する「みなと海鮮朝市」等のイベントを通じて、地域内でのPR活動も積極的に行っていく。</p> <p>(鮮度保持による付加価値の向上の取組)</p> <p>小松島漁協は、小型機船底びき網漁業の主要な漁獲物であるエビ類、イカ類について、瞬間冷凍機を利用した新たな商品（真空冷凍パック等）を開発し、パンフレットやインターネットなどを利用した通信販売においてこれら商品の販売を行い、販路拡大と認知度向上を図ることにより、漁獲物の単価向上を目指すほか、プロトン凍結機等、最新技術を取り入れながら付加価値の向上を図る。</p> <p>(新商品開発による販路拡大、認知度向上の取組)</p> <p>小松島漁協は、地域の事業者と連携を図りながらハモやアジアカエビ等の水産資源を活用した新商品開発を積極的に行い、6次産業化の取組を図る。</p> <p>(食育活動等の取組)</p> <p>小松島漁協と小松島市学校食育推進実務者会議が連携し、保育所から中学校までの学校給食に小型機船底びき網漁業で漁獲されたハモ、クロダイ、シログチ等を提供し、教育現場等における食育の普及と学校給食での利用拡大を図る。</p> <p>また、小中学生を対象に、漁協開設市場である小松島漁協魚市場の見学や職場体験を実施することで食育の取組を推進する。</p>
---------------------	---

	<p>(地先資源の維持・回復の取組)</p> <p>漁業者が主体となって小松島漁協と協力し、ヒラメやクルマエビの種苗放流に取り組むほか、青年部が主体となって小松島漁協と協力し、アサリの放流を行い水質改善や藻場の回復を図る。さらに、マコガレイの種苗放流を行い、資源維持に努める。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>以下の取組により漁業コストを基準年より資材費等の高騰も踏まええ約0.3%増加に抑制させる。ただし、燃油コストに関しては基準年比 2%削減させ、目標年度には基準年比 10%以上の削減を目指す。</p> <p>当委員会構成員の船舶燃費向上を図るため、年に1回は船底清掃を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減速航行の積極的な実施。 ・小型機船底びき網漁船の機関を省エネ機関へ機関換装し燃油消費量削減を実現する。 ・操業時間を低減させることにより、燃油コスト削減を実現するため、部会等で検討し、視察等の調査内容を勘案しながら地区に見合った方法を検討する。
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティーネット構築事業（国）</p> <p>浜の活力プラン推進事業（国）</p> <p>水産業強化支援事業（国）</p> <p>水産多面的機能発揮対策事業（国）</p> <p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）</p> <p>徳島県単独水産振興関係事業（県）</p> <p>徳島県農山漁村未来創造事業（県）</p> <p>小松島市単独漁業後継者育成対策事業（市）</p>

4年目（令和5年度）「所得8%以上向上」

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組を行うことにより、基準年度の漁業収入に対し毎年1%の向上を目標に取り組む。</p> <p>(PR活動の取組)</p> <p>小松島漁協の小型機船底びき網漁業において、1操業あたりの曳網時間の短縮や1日あたりの操業時間を短縮することにより、釣りの漁獲物に負けないスレが少なく鮮度の高い漁獲物を水揚げし、単価向上を図る。</p> <p>また、小松島漁協で水揚げされるハモやエビ類の加工品を東京で行われる「農林水産祭」等において直売等を行うとともに、毎年東京と大阪で行われる知事自ら出席するトップセールスに参加し、PR活動を行い、関東・関西の卸売業者、小売業者等を対象とした新たな販路拡大を目指す。</p> <p>さらに、大都市圏を中心としたプロモーション活動に向けた取組について、前年度の結果に基づきながら取組を行うとともに、再度の効果検証を行う。</p> <p>加えて、定期的に開催する「みなと海鮮朝市」等のイベントを通じて、地域内でのPR活動も積極的に行っていく。</p> <p>(鮮度保持による付加価値の向上の取組)</p> <p>小松島漁協は、小型機船底びき網漁業の主要な漁獲物であるエビ類、イカ類について、瞬間冷凍機を利用した新たな商品（真空冷凍パック等）を開発し、パンフレットやインターネットなどを利用した通信販売においてこれら商品の販売を行い、販路拡大と認知度向上を図ることにより、漁獲物の単価向上を目指すほか、プロトン凍結機等、最新技術を取り入れながら付加価値の向上を図る。</p> <p>(新商品開発による販路拡大、認知度向上の取組)</p> <p>小松島漁協は、地域の事業者と連携を図りながらハモやアジアカエビ等の水産資源を活用した新商品開発を積極的に行い、6次産業化の取組を図る。</p>
--------------	---

	<p>(食育活動等の取組)</p> <p>小松島漁協と小松島市学校食育推進実務者会議が連携し、保育所から中学校までの学校給食に小型機船底びき網漁業で漁獲されたハモ、クロダイ、シログチ等を提供し、教育現場等における食育の普及と学校給食での利用拡大を図る。</p> <p>また、小中学生を対象に、漁協開設市場である小松島漁協魚市場の見学や職場体験を実施することで食育の取組を推進する。</p> <p>(地先資源の維持・回復の取組)</p> <p>漁業者が主体となって小松島漁協と協力し、ヒラメやクルマエビの種苗放流に取り組みほか、青年部が主体となって小松島漁協と協力し、アサリの放流を行い水質改善や藻場の回復を図る。さらに、マコガレイの種苗放流を行い、資源維持に努める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により漁業コストを基準年より資材費等の高騰も踏まええ約0.3%増加に抑制させる。ただし、燃油コストに関しては基準年比 2%削減させ、目標年度には基準年比 10%以上の削減を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減速航行の積極的な実施。 ・小型機船底びき網漁船の機関を省エネ機関へ機関換装し燃油消費量削減を実現する。 ・操業時間を低減させることにより、燃油コスト削減を実現するため、これまでの検討の結果に基づき、試験的に実施する。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティーネット構築事業 (国)</p> <p>浜の活力プラン推進事業 (国)</p> <p>水産業強化支援事業 (国)</p> <p>水産多面的機能発揮対策事業 (国)</p> <p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業 (国)</p> <p>徳島県単独水産振興関係事業 (県)</p> <p>徳島県農山漁村未来創造事業 (県)</p> <p>小松島市単独漁業後継者育成対策事業 (市)</p>

5年目（令和6年度）「所得10%以上向上」

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組を行うことにより、基準年度の漁業収入に対し毎年1%の向上を目標に取り組む。</p> <p>(PR活動の取組)</p> <p>小松島漁協の小型機船底びき網漁業において、1操業あたりの曳網時間の短縮や1日あたりの操業時間を短縮することにより、釣りの漁獲物に負けないスレが少なく鮮度の高い漁獲物を水揚げし、単価向上を図る。</p> <p>また、小松島漁協で水揚げされるハモやエビ類の加工品を東京で行われる「農林水産祭」等において直売等を行うとともに、毎年東京と大阪で行われる知事自ら出席するトップセールスに参加し、PR活動を行い、関東・関西の卸売業者、小売業者等を対象とした新たな販路拡大を目指す。</p> <p>さらに、大都市圏を中心としたプロモーション活動に向けた取組について、それまでの取組の検証結果に基づき、次期の活動に向けた計画を立案する。</p> <p>加えて、定期的に開催する「みなと海鮮朝市」等のイベントを通じて、地域内でのPR活動も積極的に行っていく。</p> <p>(鮮度保持による付加価値の向上の取組)</p> <p>小松島漁協は、小型機船底びき網漁業の主要な漁獲物であるエビ類、イカ類について、瞬間冷凍機を利用した新たな商品（真空冷凍パック等）を開発し、パンフレットやインターネットなどを利用した通信販売においてこれら商品の販売を行い、販路拡大と認知度向上を図ることにより、漁獲物の単価向上を目指すほか、プロトン凍結機等、最新技術を取り入れながら付加価値の向上を図る。</p> <p>(新商品開発による販路拡大、認知度向上の取組)</p> <p>小松島漁協は、地域の事業者と連携を図りながらハモやアジアカエビ等の水産資源を活用した新商品開発を積極的に行い、6次産業化の取組を図る。</p> <p>(食育活動等の取組)</p> <p>小松島漁協と小松島市学校食育推進実務者会議が連携し、保育所から中学校までの学校給食に小型機船底びき網漁業で漁獲されたハモ、クロダイ、シログチ等を提供し、教育現場等における食育の普及と学校給食での利用拡大を図る。</p> <p>また、小中学生を対象に、漁協開設市場である小松島漁協魚市場の見学や職場体験を実施することで食育の取組を推進する。</p>
---------------------	--

	<p>(地先資源の維持・回復の取組)</p> <p>漁業者が主体となって小松島漁協と協力し、ヒラメやクルマエビの種苗放流に取り組むほか、青年部が主体となって小松島漁協と協力し、アサリの放流を行い水質改善や藻場の回復を図る。さらに、マコガレイの種苗放流を行い、資源維持に努める。</p> <p>また、上記の取組に関して検証を行い、改善すべき点については次期のプランへ反映させることとする。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>以下の取組により漁業コストを基準年より資材費等の高騰も踏まええ約0.3%増加に抑制させる。ただし、燃油コストに関しては基準年比2%削減させ、目標年度には基準年比10%以上の削減を目指す。</p> <p>当委員会構成員の船舶燃費向上を図るため、年に1回は船底清掃を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減速航行の積極的な実施。 ・小型機船底びき網漁船の機関を省エネ機関へ機関換装し燃油消費量削減を実現する。 ・操業時間を低減させることにより、燃油コスト削減を実現するため、これまでの調査等に基づき、地区に最適な操業時間について検討する。 <p>また、上記の取組に関して検証を行い、改善すべき点については次期のプランへ反映させることとする。</p>
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティーネット構築事業（国）</p> <p>浜の活力プラン推進事業（国）</p> <p>水産業強化支援事業（国）</p> <p>水産多面的機能発揮対策事業（国）</p> <p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）</p> <p>徳島県単独水産振興関係事業（県）</p> <p>徳島県農山漁村未来創造事業（県）</p> <p>小松島市単独漁業後継者育成対策事業（市）</p>

(5) 関係機関との連携

<p>国等の支援事業を積極的に活用し、徳島県漁業協同組合連合会、徳島県漁業共済組合、徳島県や小松島市及び研究機関等と連携を図る。</p>
--

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

(3) 所得目標以外の成果目標

「みなと海鮮朝市」参加人数 の10%増	基準年	
	目標年	

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティ ーネット構築事業 (国)	燃油価格高騰時に補填を受け、漁業経営の安定化を図る。
水産業強化支援事業 (国)	浜プランに位置づけられた施設整備の支援。
浜の活力プラン推進 事業 (国)	浜プランの見直しにかかる支援。
水産多面的機能発揮 対策事業 (国)	清掃活動や海洋環境学習等を通し、海の環境保全に努めることで地域資 源の価値を向上させる。
水産業成長産業化沿 岸地域創出事業 (国)	収益性の向上と適切な資源管理の両立を図り、漁業者自らが策定した計 画に基づき、目標達成に向けて必要な漁船、漁具等についてリース方式 による円滑な導入を支援する。
徳島県単独水産振興 関係事業 (県)	水産業の振興促進、設備の近代化等、水産業関係事業の振興の支援。
徳島県農山漁村未来 創造事業 (県)	地域農林水産業の持続的発展と農山漁村の活力創出に関する取組を支援 する。
小松島市単独漁業後 継者育成対策事業 (市)	漁業の次世代を担うリーダー及び後継者の人材を育成する取組を支援す る。